



2012-13・RIテーマ



守口ロータリークラブ 週報 No.44

平和の願いはきっとかなう

本日のピアノ演奏



講師紹介の準備中 三浦均会員

1. Top of the world 2. 糸 3. イパネマの娘

本日例会 2013年06月12日 (第2537回)	次回例会 2013年06月19日 (第2538回)
「特養ってどんなところ!？」 特別養護老人ホーム フローラル 統括主任 大山 幸乃 主任ケアマネージャー 西部 恵美子 担当：親睦活動委員会	「 担当：米山奨学委員会

出席報告

例会日	出席	欠席	出席率
06月05日	28	11	70.00%【会員42名】【内免除者2名】
05月22日	33		メイクアップ3名 (82.50 %)

前回例会 (2536回) 6/05の主な内容

◎ゲスト紹介

地区青少年交換プログラム委員長

角谷 真枝様 (茨木西RC)

本日の卓話講師

国際ロータリー2680地区パストガバナー

深川 純一様 (伊丹RC)



◎幹事報告 神田 隆司

- 6月のロータリーレート1\$=100円
- 2012-13年度事業報告書の提出をお願い致します。
- 大阪御堂筋RCと大阪本町RCの合併により、7月1日より大阪御堂筋本町RCとなります。



◎お誕生日お祝い

多田正司会員、江端将哲会員
水谷治人会員、井上智裕会員



◇◇◇第12回理事会だより◇◇◇

日時：6月5日(水) 13:30～

場所：「事務局」出席：12名

議題：青少年交換プログラムの件

お知らせ

●国際ロータリー日本事務局 事務局移転のお知らせ

国際ロータリー日本事務局は、5月27日(月)より下記に移転しました。
〒108-0073 東京都港区三田1丁目4-28 三田国際ビル24F

●新クラブ概要

大阪みおつくしロータリークラブ

例会場：大阪大学中之島センター9階

交流サロン

例会日時：木曜日 14:30～15:30

ビジターフィ：2,000円

創立日：2013年3月7日

認証状伝達式：

■会 長：篠崎 満 伸
■幹 事：神田 隆 司
■広報雑誌・会報委員長：他 谷 勝

URL : <http://www.moriguchi-rc.jp/>

■例 会 場：ホテル・アゴーラ大阪守口 守口市河原町10-5
TEL (06) 6994-1111 (代表) 〒570-0038
■事 務 所：守口市河原町10-5 ホテル・アゴーラ大阪守口5F 〒570-0038
TEL (06) 6994-0010 FAX (06) 6994-0009
■メールアドレス：info@moriguchi-rc.jp
■例 会 日：毎週水曜日 12時30分～13時30分

◎会長の時間

会長 篠崎 満信



先日、大阪市北区のマンションで、餓死している母子が発見されました。死後、数か月が経過し、食べ物らしきものは、塩だけであったと云う。痛ましいニュースがありました。

こうしたことがありますと、必ず民生児童委員に記者の取材が入る。これまでも、「独り暮らし老人の孤独死」あるいは「親の虐待による幼児の死亡」と云った、地域福祉に関わるケースが生じると、社会問題化し、その都度、民生児童委員のあり方が注目されるわけですが、当クラブにも、民生児童委員として、ご苦労されておられる方が、数名おられ、私自身も以前させていただいておりました関係で、ひと事とは思えない心境であります。

民生児童委員の方々には、こうしたひとり暮らし老人の孤独死を出さないため、常日頃から、独居老人に対する声掛け、見守り、安否確認には、日々の活動の中で、大変なご苦労をなさっておられるわけで、頭の下がる思いであります。

また、もう一つ問題になっている幼児虐待についても、この守口から絶対に出さない、との強い姿勢で、市と民生児童委員協議会とが連携されて、出生届に基づき、市からの情報提供で担当地区民生委員が、生後3ヶ月の赤ちゃんの家庭を訪問、かつその後の見守りを通して、虐待への監視の目を光らせる「こんにちは赤ちゃん運動」を展開されている。と云うことであります。

なお本市では、251名の民生児童委員がお一人で、300世帯を受け持ち、日々、地域福祉の向上にがんばっていただいている、と云うことであります。



◎薬物乱用防止教室 in 梶中学校
社会奉仕委員会 6/6 (木)

村田委員長 談
「礼儀正しく、そして、元気一杯の生徒たちでした。」



卓 話

(～卓話本文は次ページ以下に掲載～)

「職業奉仕の原理とその実践」

国際ロータリー2680地区パストガバナー (1990～1991)

深川 純一様 (伊丹RC)



ニコニコBOX S・A・A

角谷 真枝 様 (茨木RC)

青少年交換宜しくお願い致します。

中島 会員 先日の米寿の祝いの会を開いて頂き、この上ない喜びでございます。会員の皆様本当に有難うございました。

西原 会員 中島先生米寿の会、盛大に機浅井して戴きました。有難うございます。

三宅 会員 角谷様、青少年交換プログラムでお世話になります。

石井 会員 先月末、中島会員の米寿祝賀宴会に参加出来ました。

吉川 会員 中島先生、先日はありがとうございました。今後益々、守口の日本の文化の為に活躍下さい。

三浦均会員 中島先生、先日はいろいろとお世話になり有難うございました。

雛壇 一同 中島先生お気遣い頂き有難うございます。

雛壇 一同 深川様をお迎えして。

三浦均会員 国際ロータリー2680地区 パストガバナー 深川純一様、本日は卓話よろしく申し上げます。

石橋 会員 本日深川先生のお話聞かせていただける事を喜んで。

6/05 誕生・ニコニコBOX 1,174,500円

(写真提供/中道会員)



四つのテスト

●言行はこれに照らしてから ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか

卓 話 (本文)

「職業奉仕の原理とその実践」

国際ロータリー2680地区パストガバナー
(1990～1991)

深川 純一様 (伊丹R C)

今日は「**職業奉仕の原理と実践**」というテーマをいただきます。

さて、職業奉仕は難しいという話をよく聞きます。また、一方、職業奉仕ほど易しいものはない、ただロータリアンがそれを実践しないだけだという話も聞きます。どちらが本当なのか、どちらも本当なのかも知れません。職業奉仕は難しいかも知れない。しかし、難しくないかも知れないのであります。

何れにしても、職業奉仕は、解り難いという人が多いとも聞きます。そこで、今日は、30分しか時間がないので、職業奉仕の根本原理と実践のことを少しだけお話し致したいと思います。

そこで、先ず**職業奉仕とは一体どのようなものか**。私は、一応、世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むことであると理解しています。

実は、職業奉仕という言葉は、ロータリーの専門用語であります。一般世間の人達は職業奉仕などという言葉は使っていません。辞書を引いても職業奉仕という言葉はありません。また、ライオンズクラブにも職業奉仕という概念はありません。キワニスクラブやオプティミストその他ロータリー以外のアメリカ系奉仕クラブにも職業奉仕という言葉は一切ありません。将に、職業奉仕という言葉は、ロータリーの専門用語なのであります。

考えてみれば、これは**奇妙な言葉**であります。何故かと言いますと、元来、**職業**というものは、私達が生きて行くための**所得**を得るための手段、砕いて言えば、**金儲け**の手段でありますから、これは**自分のためのもの**であります。

一方、**奉仕**というものは、世のため人のために何かをすること、即ち、**自分以外の人のためのもの**であります。

このようにエネルギーの方向が全く正反対の二つの言葉の一つに合体させて職業奉仕と言っているのでありますから、判りにくいのも無理はありません。

一体、**自分のためのもの**である**職業**が、**人のためのもの**である**奉仕**のテーマになり得るのでしょうか？

職業を営むこと、即ち、**金を儲けること**が、何故、世のため人のための奉仕となるのか？**職業は金を儲けること**、これを**奉仕と考えるためには**、**一体いかなる考え方が必要なのか**？この一点が判らないと、職業奉仕は、永久に判らないことになるのであります。これを論証していくのが、まさに今日の課題であろうかと思うのであります。

まず、世のため人のための『奉仕』についての**最も素朴な考え方**から検討してみますと、**職業**は、所得獲得の手段、即ち、**金儲けの手段**であります。それは、あくまでも**自分のためのもの**であって、そこには、世のため人のためという**他人のための考え方**は一切入る余地はありません。したがって、**職業**は**奉仕**になりません。**職業と奉仕**は、それぞれ**別の世界**に存在することになります。

この考え方からすれば、職業を営むことが同時に奉仕になる、とは考えないのでありますから、世のため人のために**奉仕**をしようとすれば、**職業以外の方法**によらざるを得ません。

例えば、職業によって得た所得の一部を恵まれない人達に与えるとか、自分の労力や時間の一部を割いてボランティア活動をするとかして、いわば**弱者救済**をもって**奉仕**と考えるわけでありまして、したがって、**職業をもって**、即ち、**金儲けをもって奉仕**と考えることはできないのであります。

勿論、**弱者救済**については、ロータリーも**社会奉仕**として実践しているのであります。この素朴な考え方では、**職業という視点**から**奉仕**ということを考えることが出来ないのであります。

実は、ロータリークラブ以外の**アメリカ系奉仕クラブ**は、殆ど全てこの考え方でありまして、ライオンズクラブ然り。キワニス、シビタン皆然りであります。ところが、ロータリーは、**職業を営む心も奉仕の心も共に同じ一つの心**、つまり、**一つの心をもって**、**職業を営み且つ奉仕**すると説くのであります。即ち、**金を儲けることが同時に世のため人のための奉仕**になる、と説くのであります。

言い換えますと、**世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むべし**、と説くのであります。したがって、この考え方では、職業を営む時には、世のため人のための心をもって職業を営む、謂わば**倫理的に職業を営むこと**になるのであります。

さて、そこで、**倫理の問題**を考えると、**人間の行動パターン**を考えてみる必要があります。それは、『**打算の世界**』と『**愛情の世界**』に分けられます。

(1)『**打算の世界**』とは、人間が**価値**を求めて行動する分野であります。人間は、本来、**価値のないものは相手に致しません**。例えば、1万円の商品と1万円の貨幣とが交換されるのは、その交換によって**売主・買主双方にそれぞれ何らかの利益**があると考える時に、この**等価交換**は成立するのであって、一方が交換による**メリットがないと判断**した場合には、この**等価交換**は成立致しません。

このように、**打算の世界**とは、人間が**等価交換**の原則の下に常に何らかの**価値**を求めて**打算**によって行動する分野のことなのであります。

(2)『**愛情の世界**』とは、**貨幣価値**等では計ることの出来ないほど**価値のある世界**、そこには、**打算や等価交換の原則**などは一切存在しない、そういうものを一切必要としない世界、例えば、**夫婦の関係**のように、私の物は**貴方の物**よ、貴方の物は私の物よという**考え方**の**支配**する世界であります。

そこには、一切の**打算**がありません。しかし、**限りなき愛情**があります。この**価値**は、計り知れないものと言わなければなりません。

さてそこで、**打算の世界**では、**等価交換が終了するまでは、人と人が関係づけられています**が、一旦、交換が終了すると、その人間関係は貸し借りなしに**精算**されてしまいます。例えば、**1万円の商品と1万円の貨幣**が交換されることによって取引は終了し、売主・買主の間は、一切貸し借りなしに精算されて、後には何も残りません。

ところが、**愛情の世界**では、例えば、ご主人が今月の手形の決済が出来なくて困っている時に、奥様が実家から貰ってきた500万円を提供し、例えそれが返して貰えないことになったとしても、それを裁判にかけてまで請求することは絶対にありません。**その限りにおいて、精算されないままに因縁が残っています**。打算の世界から見れば、まさに奥様が損をしたことになるのですが、それを損とは考えない、即ち、**打算的思考の圏外にある思考**であります。そこには、一切の打算がありません。しかし、限りなき愛情があります。

実は、私達の職業の中にも、只管この**愛情の世界**のみ生きてきた**職業**があります。例えば、**宗教家**の世界も**愛情の世界**であります。

僧侶は、ただ只管に仏の道を説きます。それは、御布施を求めて仏の道を説くわけではありません。人々に対する限りなき**愛情**をもって、人々の悩みを救うために、ひたすら仏の道を説くのであります。

その結果、人々が感謝の気持をもって御布施を差し出せば、感謝の気持をもってそれを受けとるのであって、それはあくまでも**結果の問題**であります。

したがって、人々が貧しくて、御布施を差し出すことが出来なければ、出さなくともよいのであり、それを僧侶の方から請求すべき筋合のものではないのであります。したがってまた、この関係は**精算されないままに**、僧侶の生活は、その分だけ社会に対して**貸し方**になっているのであります。その故にこそ僧侶は、世の中から**尊敬と信頼**をもって報いられるのであります。

これは何も宗教家に限ったことではありません。中世ヨーロッパにおいて**宗教**即ち、**神学**から派生した学問である**法学**、**医学**、**哲学**、皆然りであります。ロータリーは、これらの分野の職業を一括して**profession専門職務**と称して、利潤追求を第一義とする**business事業**と区別しているのであります。

したがって、宗教家をはじめ大学教授、弁護士、医師等は、**神様から与えられた客観原理**をもって人々を救済することをもって第一義とする職業であると考えられているわけでありませぬ。

実は、**職業奉仕**というのは、この**愛情の世界**の考え方をもち、**打算の世界**をコントロールして行こうという考え方、即ち**愛情**をもって**職業**をコントロールして行こうという考え方なのであります。これが「**職業奉仕の根本原理**」であります。

愛情の世界は、今申し上げたように、人間関係が精算されないで常に人と人が**因縁**づけられている世界、色々な出会いがいつまでも尊重されて行く世界であります。そのような中から**尊敬と信頼**が生まれて来ます。そして、**実業家**の場合には、更に**信用**が生まれるのであります。**尊敬と信頼**そして**信用**があるからこそ実業家は、長期的に安定した経営をすることができるのであり、個々の取引が常に貸し借りなしに**精算**されていく**打算の世界**からは、**尊敬も信頼も信用も**生まれないのであります。

世の中の成功した実業家は、必ず、**愛情の世界の原理**をもって自分の企業を**マネージ**しているのであります。先程の**1万円の商品の売買**の例で謂えば、売主と買主の間に**商品と貨幣の交換**という目に見える世界があると同時に、**感謝と満足**の交換という目に見えない世界がなければならぬ、とロータリーは説くのであります。

要するに、ロータリーは、倫理運動の立場から、愛情の世界に生きる心、即ち、世のため人のための心をもって職業を営んでいますと、その結果として、『**信用**』という**保護膜**に包まれて、長期的に安定した利潤を着々と獲得していく強靱な体質の企業を作り上げることができると説くのであり、その「**原理の総体を職業奉仕**」と呼んでいるのであります。

では、この**職業奉仕の原理**がどのようにしてロータリーの世界に現れたのか。元来、ロータリー創立当初には、世のため人のための奉仕という考え方はありません。したがって、**職業奉仕**という言葉もありませんでした。当時のクラブには、会員達がお互いに仲良くなって**助け合う**という**友情**と**クラブの親睦**だけがあったのであります。

そこで、この**助け合う**ということは、具体的には**一体何を意味するのか**。

当時のロータリアンは、零細企業ばかりでありましたから、色々と自分の**企業経営上の悩み**を持っていました。そこで、その**悩み**をクラブに持ち寄って、皆で智慧を出し合って解決したのであります。例えば、「うちの会社では、今、このことで困っているんだ。何かいい考えはないかな」と言いますと、当時は一業一会員制でありますから、会員はそれぞれ**業界**が違います。したがって、それぞれの**業界のもの**の**考え方・発想**も違います。

そこで、「そのことなら、うちの業界ではもう**解決済み**だ。こうして御覧」と言って教えてくれます。

「**有り難う**」と、早速その**アイデア・発想**を自分の企業経営に役立てます。

また、或る問題については、まだ誰にも解決の**アイデア**がなかった場合には、**三人寄れば文珠の知恵**と謂いますから、皆で**衆知を集めて解決**していったのであります。

このようにして、皆が知恵を出し合い、**アイデア・発想**を交換して助け合ったのであります。したがって、当時は、恰も、**クラブが経営相談所**のような機能を果たすようになり、会員達は**次第に豊か**になって行ったのであります。

そして、やがて自分達の豊かさだけを考えるのはエゴイズムだということで、世のため人のためのことを考えるようになり、この考え方が1908年に奉仕という考え方を生み、その結果、**企業経営上の発想の交換**に加えて、**奉仕のための発想の交換**という機能を果たすようになったのであります。

実は、クラブ例会における「**アイディアの交換機能**」「**発想の交換機能**」こそ、ロータリークラブが創立当初からもっていた「**本質的な機能**」でありまして、このことは当時のクラブの定款にも「**発想の交換**」Exchange of Ideaという言葉が記されていたのであります。

このような例会における**発想の交換機能**から、やがてロータリーは1927年、**職業奉仕**という類い希なる概念を生み出すに至ったのであります。

このことから解りますように、**職業奉仕**というのは、**例会出席が大前提**なのであります。したがって、『**職業奉仕が忙しいから例会には出席できません**』などという言葉をよく耳にしますが、これは、**職業奉仕の何たるかを全く理解していないことを物語るものであります**。或いは、これは**冗談で言っているのかも知れませんが、本末転倒の議論だと言わなければならないのであります**。

要するに、ロータリアンが**職業奉仕を実践**するためには、**先ず毎週の例会に出席**しなければなりません。だからこそ、日本ロータリーの創始者**米山梅吉先生は『ロータリーの例会は人生の道場である』**と喝破されたのであります。

このように、ロータリーの例会は、**ひたすら心を磨く自己研鑽の場であり、お互いに心を磨き合う切磋琢磨の場**であります。したがって、ロータリアンは先ず、例会において、**企業経営上の諸々の発想の交換・知恵の交換**をします。そしてそこで得た**企業経営上のアイディア**、**謂わばノウ・ハウ**を自分の企業に適用し、それによって**自分の企業が成功したならば、今度は、そのノウ・ハウ**を同業組合や商工会議所を通じて**職業社会に披露**するのであります。これが**世のため人のための職業奉仕の実践**になるのであります。

ただ、誤解のないように申し上げますが、**ノウ・ハウを公開すれば自由競争に負けてしまう**と考える人があります。しかし、実際は、返って**共存共栄の実**が上がるのであります。**何故か**と言いますと、ここで**所謂ノウ・ハウ**というのは**産業秘密的なもの**ではありません。**成功することが完全に証明されたノウ・ハウ**のことなのであります。**何故なら、もし成功することが立証されていないノウ・ハウを公開して、それを適用した人が失敗すれば、他人に迷惑をかけたことになり、世のため人のための奉仕にはならないから**であります。

したがって、**職業奉仕**でいうところの**ノウ・ハウの公開**というのは、**成功することが完全に立証されたノウ・ハウを公開すること**なのであります。それを**同業者のために、更には自由競争に破れて行った敗者のために公開**することなのであります。

事例を紹介しておきます。

1954年度のRI会長ハーバート・テイラーは、1932年に倒産したアルミ食器会社の再建を依頼されました。そして約10年後に一流の企業に育て上げたのであります。それを見たシカゴ商工会議所の人達が

テイラーに対して『君は素晴らしいことを成し遂げたね。何か秘密があるだろう。手のうちを明かせよ』と言ったところ、テイラーは『実は、**四つのテスト**というものを考案して皆で力を合わせて頑張ったんだ』と答えました。

そこで、商工会議所の人達は、『**その四つのテスト**というノウ・ハウは、君が成功したことによって完全に証明されている。それを皆に披露しよう』と**商工会議所傘下の企業家達に公開**されることになったのであります。

これを見て、シカゴクラブの会員達が、『**その四つのテストをロータリーへ譲らないか**』と謂うことになって、1954年、彼が国際ロータリーの会長に就任したのを契機に、その**著作権を国際ロータリーへ委譲**したのであります。これは**商工会議所からロータリーへ逆輸入**された例であります。本来は**クラブでノウ・ハウを開発し、それを同業共存共栄のために同業組合で公開し、更に商工会議所で公開**するのがロータリーの**職業奉仕の図式**なのであります。

そして、このような**ノウ・ハウの公開**のほかに、更に、ロータリアンは、**例会においては、企業経営上の知恵の交換・アイディアの交換**によって、**職業人として為すべきこと**を為すべからざること即ち、**職業倫理**というものをお互いに誓い合い、**職業倫理**を高めなければなりません。そして、その高められた**職業倫理**を社会に提唱し、自らもその**倫理**を実践しなければなりません。これがロータリーの**職業奉仕の実践**なのであり、**ロータリーが倫理運動**であるといわれる所以なのであります。

したがって、ロータリアンは、先ず**例会に出席して、自己研鑽、切磋琢磨、そして、企業経営上のアイディアの交換**をしなければならないのであります。「**例会出席**」、これこそが**実は職業奉仕の出発点**であり、その**中核を成すもの**なのであります。

したがって、『**私は職業奉仕が忙しいから例会には出席できません**』などという言葉は、**職業奉仕を全く理解していないことを物語るものであります**。

ところで、今申し述べましたような**例会出席の重要性**を今日の日本のロータリアンはどれほど理解し、実践しているのでしょうか。多くのロータリアンは、**例会ではただ単に食事**をとり、**報告**を聞き、**卓話**を聞いて帰って行きます。**企業経営上の知恵の交換やアイディアの交換**などは殆どありません。ロータリアンに**自己研鑽・切磋琢磨の意識**すらないようにも見受けられます。中には卓話も聞かず**に食事だけして帰って行く人も居ますが、これはもう論外**であります。

翻って、**20世紀初頭のロータリアン達**は、**例会の重要性**を強く認識して、**自己研鑽・切磋琢磨**による**企業経営上のアイディアの交換**をしていました。

そして、その**例会活動**の中から**ロータリー**的企業管理論とでもいうべき**原理**を生み出し、それを**実践**して、**1927年**遂にその**実践原理**を**職業奉仕**と名付けたのであります。

したがって、**職業奉仕を理解して実践**するためには、**例会で謙虚に先輩の知恵に学び、例会出席の重要性**を肝に銘じなければならないと思うのであります。

以上@